

リハビリテーション学専修（理学療法学）履修モデル

【期待される能力・修了後の主な進路】

理学療法の対象の中心である中枢神経障害、骨関節障害、呼吸循環障害などに対して科学的根拠に基づき論理的に統合した新たな理学療法の実践体系を構築する能力を養う。また、保健・医療・福祉領域に関わる他職種との相互理解と連携を行う能力を培う。

修了後は、保健・医療分野の医療機関や福祉施設での理学療法実践や管理運営に従事する。また理学療法に関する臨床における指導者や学生の教育に携わる。臨床研究なども継続して行うことを期待する。

2年次

【特別研究】

リハビリテーション学特別研究Ⅰ（7）

リハビリテーション学特別研究Ⅱ（7）

1年次

【共通必修科目】

IPW論（専門職連携実践論）（2）

【共通選択科目】

保健医療福祉概論（2）

保健医療福祉研究法特論（2）

保健医療福祉学際英語（2）

高次脳機能と病態制御（2）

【専門科目】

臨床リハビリテーション研究法（2）

運動器障害治療学特論（2）

内部機能障害治療学特論（2）

【専門科目（修了要件外）】

リハビリテーション教育学Ⅰ（2）

リハビリテーション教育学Ⅱ（2）

【学士課程において身につけておくことが望まれる能力】

理学療法の対象となる疾患である中枢神経障害、運動器障害、内部障害等に対して、科学的根拠に基づき、論理的に総合した理学療法の実践体系を構築することや、保健医療福祉領域に関係する他職種との連携を行うために能力が期待される。